

国内研修を終えて

私たちは8月22日から24日の二泊三日で徳島県にボランティア活動をしてきた。私たちは徳島県勝浦町にある、「ふれあいの里さかもと」でお世話になり、勝浦町で提供しているお試し定住施設「トライアルハウス坂本家」で過ごした。徳島県勝浦町とは面積69.80km²、人口約5500人、町を西北に貫流し町の由来ともなっている勝浦川段丘状の盆地に位置する典型的な中山間地だ。平均気温は16度前後。最も寒い1月の最低気温は2度、最も暑い8月の最高気温は31度と温暖だ。降水量は9月が最多で300mmと比較的雨が多い地域でもある。また四国霊場20番札所「鶴林寺」の在所となり、お遍路さんの来訪も多い地域だ。またミカン栽培で栄えた町でもあり、現在でも徳島県産のみかんと言えば勝浦の名前が付いた勝浦ミカンが有名になっている。勝浦町は田舎と言っても徳島市までは車で30分、病院やスーパー、コンビニなどもあり足りないものも多いかもしれないが生活をために必要な施設や物は揃っているため暮らしに便利な、まさにほどほどに田舎という印象を受けた。

1日目は元々11時の飛行機に乗り早く着く予定だったので、勝浦町の案内と解説をしてもらう予定だった。しかし丁度台風が東京に上陸していたため、振替の飛行機にしたが、その飛行機も遅延したので空港で6時間ほど足止めされた。そのため予定していた勝浦町の案内と解説を受けることがあまりできなかった。徳島阿波踊り空港に着いたのは19時ごろなので、徳島ラーメンを食べ、「ふれあいの里坂本」に到着し、1日目は終わった。

2日目、この日は実際に作業をする日だ。私たちは田舎にボランティアをするということで、最初に実習先が決まった時には農作物の収穫をお手伝いするというようなよくある農業体験をするつもりだった。しかし私たちが今回体験したのは古民家の改修というものだった。今までテレビでしか見たことのない古民家の改修なんて一生に一度体験できないような事なのでとても楽しみだった。なぜ古民家の改修をすることになったのかと言うと、私たちが過ごした「坂本家」に東京から移住し空き家を譲り受けていた石川さん夫妻がいらして、石川さん夫妻が県外や海外から訪れる人が少ないと感じ、譲り受けた古民家を改修して民宿にするため、そのお手伝いをするようになった。その古民家が築105年と、とても古い民家で壁も土壁で初めて見た。話を聞くと、この古民家には現代の家には必ずある住宅の土台のようなものがなく、それでも現在までしっかり建っているということは地震にも強く、また戦争の時代を生き抜いてきた民家でもあるのだ。この話を聞き私は105年もの歴史をこの民家はみてきたと思うと、古き良きものを残すことは過去を忘れないためにも必要なことだと改めて感じた。そんな古民家で私たちの仕事は下地が塗ってある壁に珪藻土を塗る作業だ。民宿の内装の一部になるためふざけていい作業ではないので気が抜けなかった。石川さん夫妻も塗るのは初めてということで職人の方をお呼びしていた。職人さんが珪藻土を塗る姿は、正直とても簡単そうだった。これなら自分でもきれいに満遍なく塗ることができる。と思っていた。しかし実際に作業に入ると、そんなことはなかった。職人さんがやるようには珪藻土は延びてくれず、均一な厚さにはならない。私たち

がようやく 1 つの区切りのいいところが終わって休憩しているところに職人さんが一瞬で手直しをしていて、技術力の高さを感じた。お昼を迎えるころにはある程度慣れてくるものの、まだ時間もかかりムラもあった。結局その一日では完璧にすることはできず終わってしまった。その作業中に田舎の人と人とのつながりを感じた部分があった。珪藻土を塗る際に木島さんという人がいた。木島さんは石川さん夫妻と一緒に東京から勝浦町に移住した人の一人で、イタリアンカフェ「サロット」を経営している。他人なのに木島さんが珪藻土をお手伝いで手伝ってくれたり、作業の帰りにすれ違う車の運転手が知り合いで、その方から畑での対策を聞いたりなど東京ではありえない光景を目の当たりにして田舎ならではの人との繋がりや温かさを感じた。私たちは木島さんと初対面にも関わらず、その日の夜にカフェにお邪魔することになったときには人の縁の素晴らしさを感じた。「ふれあいの里さかもと」の職員の方々、勝浦町の町役場の方々、石川さん夫妻など、たくさんの方々の優しさをご好意を感じるような実習でした。移住をする人ごとに、様々な思いがあることを知った。

3 日目は観光も兼ねて市内の視察をした。実際に自分の足で市内を見て回らないとわからないことはたくさんあった。まず山だ。徳島の山はまさに日本の山であり高くはないが斜面がとても急なのだ。そのため車から見ると遠くにずっと山が見えるのではなく、景色とともにどんどん移動し行く光景が不思議に感じた。また徳島を車で移動中に頻繁にドライブスルーがあると思ったら、徳島県は車社会だった。そのためマクドナルドを筆頭にスターバックスなど東京ではドライブスルーにならないお店までドライブスルーになっていて地域のニーズに合わせていると感じた。高齢化が進んでいる影響なのか、シャッター街が多くみられ空いている店舗のほとんどがスーパーやコンビニなどのチェーン店ばかりで、その地域特有のものがあまり多くみることができなかった。少し活気が足りない気がした。

今回の国内研修を経て私は 2 つのことを学んだ。1 つ目は実際に行ってみないとわからないということです。今回の研修に行く前の徳島の印象がほとんどないものだった。しかし実際に行ってみると、車社会であったり、畑だけでなく棚田もであったり、降水量がとても多かったりなど様々な発見があった。2 つ目は人と人との繋がりである。私たちの研修先の「ふれあいの里坂本」の方だけでなく、そこから様々な人が繋がりたくさんの方と知り合いました。このような繋がり東京ではなかなかできるものではありません。今回そのような経験ができて自分もこれから人とのつながりを大事にして生きたい。このような経験を活かしもっと学びを深めていきたい。